【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	枚方市立牧野小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	養護学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	4	3	1	23	３３
児童数	136	116	143	123	142	110	5	775	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

・主題（テーマ）
「生き生きと学習に取り組み、自己を高める児童の育成をめざして」
算数科における基礎・基本の定着と学力向上、個に応じた教育の推進
・　テーマ設定の趣旨
　これからの学校教育は、子どもたち一人一人に「生きる力」の育成を図ることが求められている。そのためには、この「生きる力」を「知」の側面から見た「確かな学力」、つまり知識や技能はもとより、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などまで含めた「学力」を身につける必要がある。本校の子どもの実態をもとに考えたとき、つけたい力とも重なるこれらの力をつけるためには、算数科が適切ではないかという結論に達した。その理由としては、算数科の特性でもある①筋道が立てやすい理論立った教科であること、②学年で系統立っているということが、子どもたちの思考力、判断力、表現力等の力を伸ばしていくのに適切な教科であると考えたからである。

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

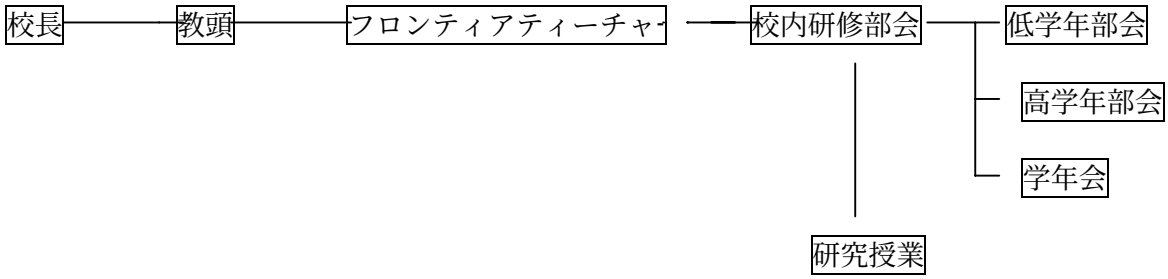
・全学年・算数科における実践研究に取り組む。
　児童の実態調査の結果から、「数学的な考え方」がどの学年においても課題であった。また、基礎的・基本的な学力に大きな個人差があるばかりでなく、自分で課題を見つけ、自ら主体的に解決しようとする能力にも大きな課題があることが明らかとなった。これらの課題を克服するため、本校では、「知識・理解・表現・処理」の側面以外に、「数学的な見方・考え方・関心・意欲・態度」の面での教育効果が期待される「問題解決的な学習」を各学年通じて、算数科の指導の基本に設定した。また、基礎的・基本的な学力の差が大きくなる高学年に習熟度別指導を設定した。4 年生では、9 月より T・T の導入を始め、10 月より、習熟度別２分割指導を始める。５年生は、４月より習熟度別２分割指導を、また６年生においては、習熟度別３分割指導を開始した。

（２）年次ごとの計画

平成１５年度	○ テーマ 低学年「個に応じた学習指導をめざして」 ① 多様な考え方を導き出す課題の工夫 ② 子どもの実態をつかみ、子どもの変容を把握する方法の研究 高学年「少人数指導（習熟度別指導）の効果的な活用」 ① 習熟度別指導に応じた課題・展開の工夫 ② 学習記録や評価方法の研究 ○ 研究の見通し ① 子どもたちの学習意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を図るために、全ての学年において体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた指導を推進する。 ② 高学年において、同一内容、同一教材、同一速度の授業では、克服できない課題も多く抱えている児童の実態をふまえ、個に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るために、４・５・６年で習熟度別指導に取り組む。 ○ 研究の内容・方法 ① 年間を通して、体験的な学習や問題解決的な学習を重視した学習指導の設定 ② 高学年において習熟度別指導の導入 ③ 全学年において、研究授業及び、公開授業の実施、研究協議会の開催 ④ 講師を招いての理論研究や研究授業・研究協議会の実施 ⑤ 定期的な校内研（学年会、低学年部会、高学年部会、全体会）の実施 ⑥ 指導案や学習具の研究と開発

平成１６年度	○ テーマ 「習熟度別指導による基礎・基本の確実な定着と個に応じた教育の推進」 ① 習熟度別指導に応じた課題・展開の工夫・学習具の開発 ② 学習記録や評価方法の研究 ③ 補充的な学習と発展的な学習の研究 ○ 研究の見通し ① 問題解決的な学習の一層の研究と内容の充実を図る。 ② 全学年習熟度別指導を実施する。 ③ 補充的な学習と発展的な学習の研究に努める。 ④ 評価の研究を推進する. ○ 研究の内容・方法 ① 年間を通して、体験的な学習や問題解決的な学習を重視した学習指導の設定 ② 全学年において習熟度別指導の導入 ③ 全学年において、研究授業及び、公開授業の実施、研究協議会の開催 ④ 講師を招いての理論研究や研究授業・研究協議会の実施 ⑤ 定期的な校内研修全体会の実施 ⑥ 指導案や学習具の研究と開発 ⑦ 評価についての研究

（３）研究推進体制



校内研修推進部会のもとに、学年会・低学年部会・高学年部会を持ち、相互にその成果や課題を明確にしながら研究を進める。また、府の教育センターの指導主事や市の指導主事等の外部から講師を招き、指導助言、示唆を受ける。全学年が研究授業を行うことにより、授業改善をめざした取り組みを図る。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・　全学年において、問題解決的な学習を基本に据えた指導を進めてきたが、子どもたちは、明確に学習課題をつかみ、意欲的に学習に取り組む姿勢が他の教科においても見られるようになってきた。
・自分の言葉で、ワークシートにうまくまとめることができなかった子どもが少しずつまとめることができるようになってきた。
・12 月における児童のアンケート調査より、「少人数の授業はよく分かりますか」・「選んだコースは自分に合っていましたか」の質問に対して、およそ８割５分の児童が「はい」と答えている。また、「分からないところは、聞きやすいですか」の質問に対しては、およそ８割が「はい」と答えている。このように、どの学年の児童も、算数に対する興味や関心も高まりつつある。
・保護者からも習熟度別指導に対する理解や評価の高い声を頂いている。
・全教職員の共通理解が不可欠になり、指導方法の改善に対する意識改革が進み、学習具の準備や開発も一層進んだ。
・分割することや個別学習をすることで、子ども一人一人の学習の実態が把握しやすく、特につまずきの実態が明らかになり、個に応じた指導や支援がし易くなった。また、算数科における指導法について授業研究を通じ学習を深めることにより、教師一人一人の指導力量を高めることができた。

２．今後の課題

① 今年度研究、実践してきた内容を振り返る中で、単元計画の中身を更に綿密に立て直し、来年度に生かす。
② 指導形態について、来年度は、全学年に習熟度別指導が実施できるように、単元を限定したり、単元の途中で習熟度別指導を実施するなどの点を考慮に入れた弾力的な運用を行う。
③ 学習評価についての研究を進める。
④ 補充的な学習・発展的な学習についての研究を深める。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

＜チェックテスト＞（レディネステスト）
・児童選択による習熟度別指導のコース選択に当たる前に、児童の学力についての情報提供を児童や保護者に対して行う。テストの内容は、その単元と関連のある内容を中心に出題。

＜学習内容定着度テスト＞
・毎学期の終了前に、その学期学習した教科書レベルの内容についての児童の理解・定着度を把握するために行なう。

＜枚方市小中学校学力診断テスト＞
・毎年３学期の初めに、その学年で学習したことの内容の定着度を診断する目的で実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

① 平成１５年度第８回北河内地区学力向上推進協議会で、北河内地区各小・中学校対象の公開授業を行った。また、他の学校の算数担当者や北河内地区のフロンティアスクール並びに協力校の担当者と、情報交換やフリートーク等の意見交流を行った。
② 学校のホームページに研究の成果と学校の取り組みについて掲載する。
③ 研究冊子を作成し、各校に配布した.
④ 授業参観で保護者等に算数の習熟度別指導を公開した。

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校
【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　■１９～２４学級　□２５学級以上
【指導体制】　■少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他
【研究教科】　□国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無